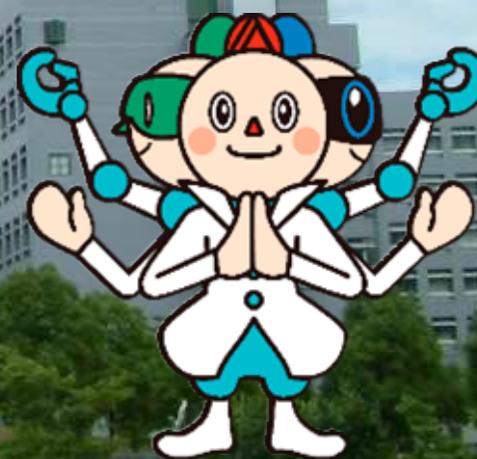




# 「With コロナ時代の国際人材交流について」 ～欧州学術ネットワークJANETの取り組み～

奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構  
准教授 国際共同研究担当ディレクター  
三宅 雅人



**NASURA**

# 研究大学強化促進事業



- 客観的分析データに基づいた戦略・企画の策定
- 外部資金の戦略的獲得
- 国際共同研究のネットワーク強化

世界に存在感のある  
研究領域を新たに作る

新研究領域創出  
チャレンジプログラム

若手研究者  
発掘・育成  
プロジェクト

テニユアトラック制  
による若手教員採用

戦略的研究  
チーム強化  
プロジェクト

優れた研究成果を  
挙げつつある  
研究チームに研究  
スタッフを重点配置

トップクラスの  
研究力を維持・強化する

サステナブル研究力  
向上プログラム

国際的  
頭脳循環  
プロジェクト

研究力強化・  
ネットワーク  
形成のための、  
海外派遣を支援

先端研究手法  
導入支援  
プロジェクト

先端技術を  
習得するための  
研修や研究開発を  
支援

戦略的学術  
論文校正支援  
プロジェクト

英語論文校正に  
よる作成スキルの  
向上を支援

世界に研究力を可視化し  
国際的位置を向上させる

戦略的国際共同研究  
ネットワーク形成プログラム

海外研究  
拠点整備  
プロジェクト

海外の大学や  
研究機関に、  
本学のサテライト  
研究室を設置

国際共同  
研究室整備  
プロジェクト

海外より、著名な  
研究者を本学に  
招へいし、国際共同  
研究室を設置

## 研究力強化に向けた研究システムの改革

# 海外研究拠点の整備



## 海外研究拠点整備プロジェクト

### ● 2拠点を設置（欧州・北米）

- ・ 本学の助教、特任助教が常駐
- ・ 教員・学生も適宜派遣
- ・ 両拠点を足掛かりに、大学間ネットワークを強化



在欧日本学術拠点ネットワーク（**JANET**）に加盟、情報発信委員長  
 サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク  
 （**JUNBA**）に加盟、理事に選出（於：第122回JUNBA理事会）

設置先	フランス 国立科学研究センター 材料精緻化・構造研究センター（CEMES） （平成26年10月開設）	アメリカ カリフォルニア大学デービス校 （平成28年3月開設）
研究分野	分子情報材料科学	バイオインフォマティクス
原著論文・総説	21報	11報
国際学会・研究会発表	23件	7件
シンポジウム開催	2件(平成26、27年度トールーズ)	2件(平成26年度デービス及び奈良)
研究者・学生交流	受入 6名(計12件)、派遣10名(計24件)	受入4名(計2件)、派遣6名(計11件)
備考	・平成27年度のシンポジウムでは、その翌年にノーベル化学賞を受賞したJean-Pierre Sauvage教授、Bernard L Feringa教授が講演 ・平成30年度より、連携先の教授をクロス・アポイントメント制度を活用して基幹研究室の教授に招聘	・この研究室の他に、FD/SD研修、語学研修、ラボ研修など、ワークショップなど、受入・派遣は、10年間で682人

# サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク (Japanese University Network in the Bay Area: **JUNBA**)

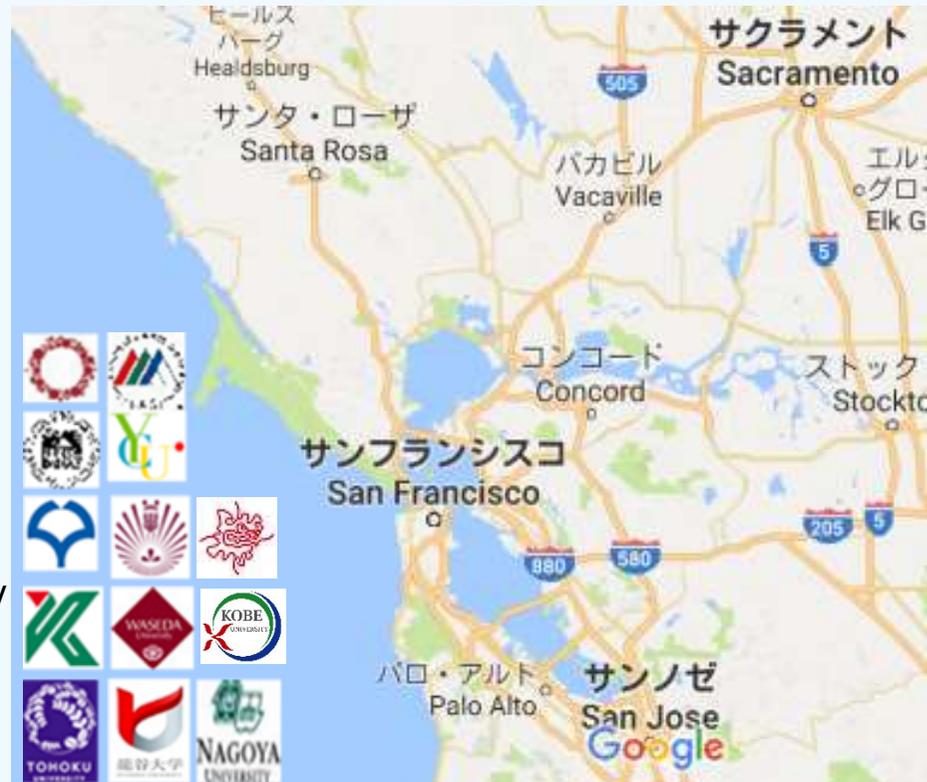


## JUNBAの組織について

JUNBAは米国内に拠点を持つ日本の大学間の連携を図り、日本の大学の国際化、国際的人材の育成、産学連携等の諸活動を支援し、日本及び米国における教育・研究の発展と、産業創出に寄与する事を目的とし、学術集会などを含む各種催し物の開催、連絡会議やホームページ等による情報交換、その他様々な活動を行う組織です。

### メンバー校：

桜美林学園アメリカ財団  
大阪大学北米拠点  
鹿児島大学北米教育研究センター  
九州大学カリフォルニアオフィス  
東北大学米国代表事務所  
名古屋大学テクノロジー・パートナーシップ  
横浜市立大学カリフォルニアオフィス  
龍谷大学バークレーセンター  
早稲田大学サンフランシスコオフィス  
NAIST - UC DAVIS International Collaborative Laboratory  
for Medical & Bio Informatics  
神戸大学シアトル拠点  
沖縄科学技術大学院大学財団  
日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センター



# 大学を変えるファンドレイジング

～米国から学ぶリーダーシップと  
同窓生を中心としたコミュニティ作り～

## Fundraising Best Practices

-Fostering Effective Leadership and  
Building Alumni Relationships-

開催日:2020年1月10日(金) 9:00～

会場:Marriott San Francisco Airport Waterfront

近年、大学を取り巻く財政状況が厳しさを増す中、独自財源である寄附の役割に焦点が当たっているところ。米国大学においては、学長をはじめとした大学幹部のリーダーシップのもと、同窓生を中心とした大学を支える個人、企業等との関係を構築しながら、多額の寄附を集めていることが知られています。こうした背景を踏まえて、JUNBA 2020では大学のファンドレイジングに関する米国大学の戦略を学ぶとともに、日本の大学における取組の改善に向けて議論することとしました。

### 講演

Peter Smits



米国内の様々な大学においてファンドレイジングに係る責任者を務めてこられた。ファンドレイジングに係る大学幹部の役割をはじめとして、大学の組織、予算を含め、米国大学のファンドレイジングに係る戦略の全体像を伺います。

Amy Ambrose



長年ファンドレイジングに携わってこられた氏に、継続的な同窓生との関係構築を中心として、大学を支えるステークホルダーとの関係作りについて、その秘訣を伺います。

主催 サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク (JUNBA)  
共催 独立行政法人日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センター  
後援 文部科学省、在サンフランシスコ日本国総領事館、  
独立行政法人日本貿易振興機構サンフランシスコ事務所



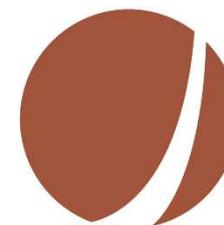
近年、大学を取り巻く財政状況が厳しさを増す中、独自財源である寄附の役割に焦点が当たっているところ。米国大学においては、学長をはじめとした大学幹部のリーダーシップのもと、同窓生を中心とした大学を支える個人、企業等との関係を構築しながら、多額の寄附を集めていることが知られています。

こうした背景を踏まえて、JUNBA 2020では大学のファンドレイジングに関する米国大学の戦略を学ぶとともに、日本の大学における取組の改善に向けて議論することとしました。

→後日、内容をまとめた開催記録を出版したいと考えております。



# JANET : 在欧日本学術拠点ネットワーク



JANET

Japan Academic Network in Europe

設立 : 2015年発足

設立目的 : 主に欧州に拠点を持つ日本の大学・学術機関による日欧の学術情報交換を目的とした組織です。

2015年に日本学術振興会（JSPS）ボン研究連絡センターの小平センター長と筑波大学の永田学長の呼びかけにより発足しました。

欧州に連絡事務所や研究・留学拠点を持つか、欧州で活動展開をしている日本の大学・学術機関等が共同して、欧州現地における活動の連携・潤滑化を図るとともに、合同で日本学術の存在感を高め、欧州学術情報の共同取得・共有に資するために、緩やかなネットワークを構成しています。

# JANET加盟機関



欧州内に事務所または  
拠点を有するメンバー機関

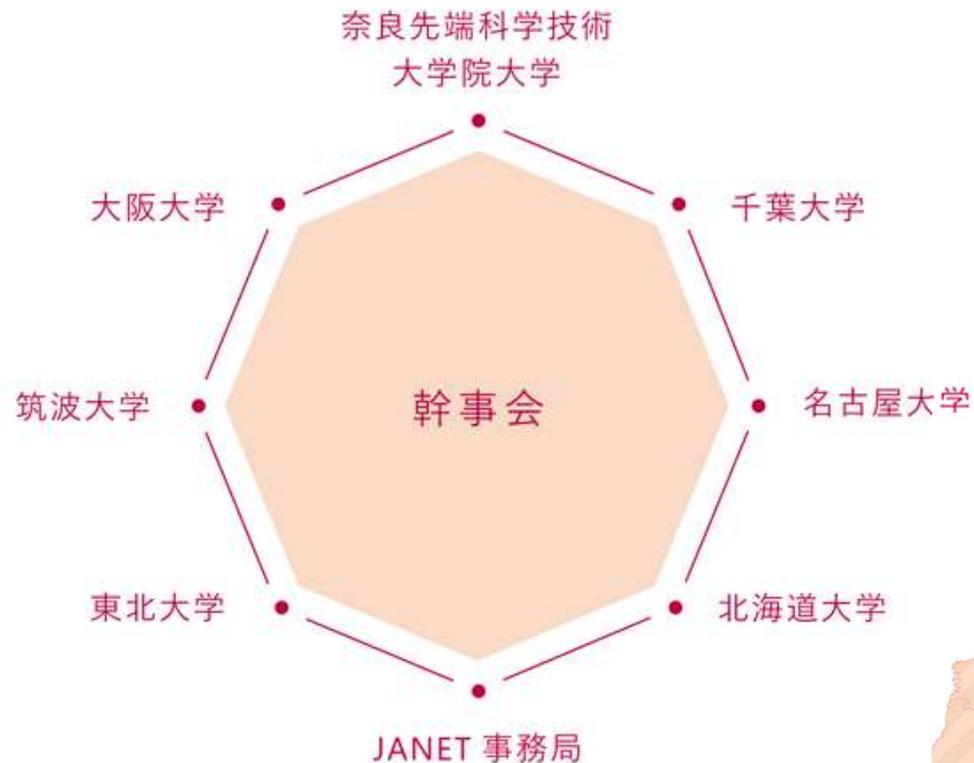
24 機関

欧州内で活動を  
展開しているメンバー機関

7 機関



31機関 = 16か国+日本 = 46拠点+7国内大学



# JANET加盟拠点の設置国



## フィンランド

大学・機関名	欧州拠点有無	欧州拠点	
		拠点名称	拠点所在都市
北海道大学	有	<a href="#">北海道大学欧州ヘルシンキオフィス</a>	ヘルシンキ
千葉大学	有	千葉大学IECオフィス (セイナヨキ応用科学大学)	セイナヨキ

## ロシア

大学・機関名	欧州拠点有無	欧州拠点	
		拠点名称	拠点所在都市
北海道大学	有	<a href="#">北海道大学ロシアモスクワオフィス</a>	モスクワ
千葉大学	有	千葉大学日本センター (ロシア人文大学)	モスクワ
広島大学	有	広島大学代表オフィス	トムスク
国際交流基金	有	<a href="#">モスクワ日本文化センター</a>	モスクワ

フィンランド、ロシア、フランス、スウェーデン、ドイツ、オランダ、イタリア、ベルギー、ポーランド、リトアニア、イギリス、スペイン、ハンガリー、ルクセンブルク、デンマーク、ベラルーシ

# JANETの主な活動



- 情報ネットワークを作り 関連情報を共有
- 欧州での合同行事の開催
- 情報交換会の開催
- その他目的達成に必要な活動
- 1年に1回の割合でJANETメンバー機関が一堂に会することができるフォーラムの開催

2016

企画

筑波大学

共催

ベルリン自由大学、  
JSPS ボン研究連絡センター

2017

企画

名古屋大学

共催

フライブルク大学、  
JSPS ボン研究連絡センター、  
JSPS ストラスブール研究連絡センター

2018

企画

東北大学

共催

INSA-Lyon、  
JSPS ストラスブール研究連絡センター、  
JSPS ボン研究連絡センター

2019

企画

大阪大学

共催

在英日本大使館、  
University College London、  
JSPS ロンドン研究連絡センター、  
JSPS ストラスブール研究連絡センター、  
東北大学、  
京都大学

後援

AMED ロンドン事務所



# JANET情報発信委員会による 新たな取り組み

## 情報発信委員会

委員長：

- ・三宅 雅人  
(奈良先端科学技術大学院大学  
国際共同研究担当ディレクター)

委員：

- ・岡部 赳大  
(北海道大学 ヘルシンキオフィス  
副センター長)
- ・柏原 誠  
(千葉大学 ベルリンオフィス  
プロジェクトコーディネーター)
- ・土井 康裕  
(名古屋大学 ヨーロッパセンター  
センター長)
- ・青山 誠  
(JSPSボン研究連絡センター  
副センター長)

## 新型コロナウイルスに関する「情報共有」について

～JANET 情報発信委員会からのお願い～

JANET は、欧州に拠点を持つ日本の大学・学術機関による日欧の学術交換を目的としています。

この度、「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)」感染状況に鑑み、参加機関組織・メンバーにおける正確かつ詳細な状況に関する「安全情報の共有化」に向けた活動を行うこととしました。

つきましては、海外各地に於ける現状および対応、また現地の生活環境、さらには各国政府の対応ならびに科学技術・文教政策動向など、欧州各地の実情をつぶさに共有することにより、今後の大学・学術機関への研究者や学生の派遣や安全確保に寄与できるものと考えております。

なお、海外赴任の皆様にとって、日本国内の大学・学術機関さらには国民生活にも多大な関心を寄せられておられると思います。できる限りの情報収集に努め、日本からも、より詳しい情報発信を考えております。

JANET 欧州情報のホームページが、日欧の情報共有の場になればと考え、皆様からの積極的な情報提供をお願いする次第です。

ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

体調のすぐれない方については、一刻も早く回復されますようお祈り致しますと共に、現在、お元気な方も、どうぞご自愛ください。

JANET 情報発信委員会  
委員長 三宅雅人

# 欧州情報

---

## 2020年

[2020.10.6 オランダにおける感染再拡大（オランダ、グローニンゲン）](#) 

[2020.8.19 新型コロナウイルスとロシア（ロシア、モスクワ）](#) 

[2020.8.19 ロックダウン下のフィンランド留学記（フィンランド、ヘルシンキ）](#) 

[2020.8.17 新型コロナウイルス感染拡大抑制に対するモスクワ市および大学の対応（ロシア、モスクワ）](#)

[2020.7.17 オランダにおける規制緩和後の状況（オランダ、グローニンゲン）](#)

[2020.6.01 コロナ禍におけるスウェーデン・ストックホルムの状況（スウェーデン・ストックホルム）](#) 

[2020.5.25 Ghent University and the corona crisis: an interim impression（ベルギー、アントワープ）](#) 

[2020.5.18 ロックダウン下のフィンランドと大学入試をめぐる混乱（フィンランド、ヘルシンキ）](#) 

[2020.5.08 オランダの新型コロナウイルス情報（オランダ、グローニンゲン）](#) 

[2020.4.20 Charité（シャリテ）の成り立ち（ドイツ、ベルリン）](#) 

[2020.4.01 新型コロナウイルスに関する情報（ドイツ、ベルリン）](#) 

[2020.4.01 新型コロナウイルスに関する「情報共有」について～JANET情報発信委員会からのお願い～](#) 

# With コロナ時代の国際人材交流について



すでに海外の研究者と構築している関係維持は、ビデオ会議で行える。

しかしながら、新規の関係構築や既知の研究者との新たな展開などは、対面が必要不可欠である。また、訪問することにより、研究以外の情報収集・交換も得ることができる。と考えている。

さらに、若手研究者は、研究の手法や考え方など、自分の固定概念を覆す発想法などを吸収することができる。